

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2000123021 A**

(43) Date of publication of application: 28 . 04 . 00

(51) Int. Cl. **G06F 17/30**
G06F 13/00

(21) Application number: **10289667**

(22) Date of filing: 12 . 10 . 98

(71) Applicant: **RECRUIT CO LTD**

(72) Inventor: **IKEJIRI HIROAKI**
ATSUGI KATSUYUKI
UEICHI YUKA

(54) WWW DATABASE SYSTEM

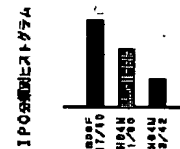
the recorded information can be offered to the user.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

PROBLEM TO BE SOLVED: To offer an exclusive personal recording book to a user whose performs access, to leave the recording of the retrieved results of a database in the recording book, and to allow the user to read the recorded contents of his own personal recording book while the recorded information is classified and arranged.

SOLUTION: When a request for the reading of the recorded contents of a personal recording book is issued from a user's computer, information in a database linked with each information identifier recorded in the personal recording book is extracted as necessary, and the screen constitution data of a recording hook reading screen for expressing the summary of the information as a list are generated, and transmitted to the user's computer. At the time of constituting the recording book reading screen, the classification data of each information linked with each information identifier are extracted from the database, and how much information is pertaining to what kind of classification in this personal recording book is arranged with proper expression based on those classification data so that

[illegible]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-123021

(P2000-123021A)

(43)公開日 平成12年4月28日 (2000. 4. 28)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
G 0 6 F 17/30		G 0 6 F 15/401	3 1 0 D 5 B 0 7 5
13/00	3 5 5	13/00	3 5 5 5 B 0 8 9
		15/40	3 1 0 F
		15/403	3 4 0 B

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 19 頁)

(21)出願番号 特願平10-289667
(22)出願日 平成10年10月12日 (1998. 10. 12)

(71)出願人 000139012
株式会社リクルート
東京都中央区銀座8丁目4番17号
(72)発明者 池尻 博明
東京都中央区銀座8丁目4番17号 株式会
社リクルート内
(72)発明者 厚木 勝之
東京都中央区銀座8丁目4番17号 株式会
社リクルート内
(74)代理人 100071283
弁理士 一色 健輔 (外2名)

最終頁に続く

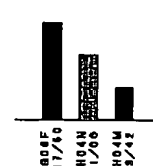
(54)【発明の名称】 WWWデータベースシステム

(57)【要約】

【課題】 アクセスしてくる利用者にそれぞれ専用のパーソナル記録簿を提供し、その記録簿にデータベースの検索結果の記録を残しておく。利用者が自分のパーソナル記録簿の記録内容を開覧するときに、そこに記録した情報を分類整理して見せる。

【解決手段】 利用者コンピュータからパーソナル記録簿の記録内容の開覧要求があった場合、該当のパーソナル記録簿に記録されている各情報識別子に基づいて、それら情報識別子にリンクしているデータベース中の情報を適宜に取り出し、それら情報の概要を一覧的に表現した記録簿開覧画面の画面構成データを生成し、利用者コンピュータに送達する。その記録簿開覧画面を構成するにあたり、各情報識別子にリンクしている各情報の分類データをデータベースから取り出し、それら分類データに基づいてパーソナル記録簿に何という分類に属する情報が何件記録されているのかを適宜な表現で整理して提示する。

I P C分類別ヒストグラム



あなたが発明を付けた公開特許一覧

公開番号	IPC 分類	発明名称	出願日	公開日
特開2000-123021	G06F 17/40	インターネット上でWWWサーバとクライアントとを接続する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123022	G06F 15/40	ユーザの検索履歴をデータベースに記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123023	G06F 13/00	データベースの検索結果をユーザのパーソナル記録簿に記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123024	G06F 15/403	インターネット上でWWWサーバとクライアントとを接続する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123025	G06F 15/40	ユーザの検索履歴をデータベースに記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123026	G06F 13/00	データベースの検索結果をユーザのパーソナル記録簿に記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123027	G06F 15/403	インターネット上でWWWサーバとクライアントとを接続する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123028	G06F 15/40	ユーザの検索履歴をデータベースに記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123029	G06F 13/00	データベースの検索結果をユーザのパーソナル記録簿に記録する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28
特開2000-123030	G06F 15/403	インターネット上でWWWサーバとクライアントとを接続する装置及び方法	1998.10.12	2000.04.28

【特許請求の範囲】

【請求項1】 つぎの事項(1)～(8)により特定される発明。

(1) コンピュータを用いた情報処理システムであり、外部のコンピュータとネットワークを介して通信してWWWサーバーとして機能し、データベースに蓄積してある情報を適宜に提供する。

(2) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信して利用者IDに基づく認証を行う。

(3) 各利用者ごとのパーソナル記録簿を適宜な記憶資源に利用者IDに対応づけして用意する。

(4) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信し、検索条件の入力を受け付けるクエリー入力画面の画面構成データを送達することと、その画面で入力されたクエリーを受け取ることと、クエリーに回答してデータベースを検索することと、検索結果の情報を提示するレポート画面の画面構成データを送達することとを適宜に繰り返す。

(5) レポート画面構成データには、提示する検索結果情報についての記録をパーソナル記録簿に残すことを指示入力させるための記録指示欄を付帯させる。

(6) 利用者コンピュータにおいて前記記録指示欄に入力があつたことを認知したならば、指定された検索結果情報の情報識別子を該当のパーソナル記録簿に記入する。

(7) 利用者コンピュータからパーソナル記録簿の記録内容の閲覧要求があつた場合、該当のパーソナル記録簿に記録されている各情報識別子に基づいて、それら情報識別子にリンクしているデータベース中の情報を適宜に取り出し、それら情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面の画面構成データを生成し、利用者コンピュータに送達する。

(8) 前記記録簿閲覧画面を構成するにあたり、各情報識別子にリンクしている各情報の分類データをデータベースから取り出し、それら分類データに基づいてパーソナル記録簿に何という分類に属する情報が何件記録されているのかを適宜な表現で整理して提示する。

【請求項2】 請求項1に記載のWWWデータベースシステムであつて、事項(8)での情報分類処理に関し、各情報のどの属性項目を前記分類データとするのかを利用者が選択可能であり、利用者がこの選択をするための入力画面の構成データを利用者コンピュータとの適宜な通信の機会に送達し、その画面への利用者の選択入力を受領する。

【請求項3】 請求項1に記載のWWWデータベースシステムであつて、前記パーソナル記録簿には情報識別子と事項(8)での情報分類処理に関わる分類データとを対応づけして記録することとし、その分類データは利用者が任意に入力した分類データに対応したものであり、利用者がこの分類データ入力を行うための入力画面の構

成データを利用者コンピュータとの適宜な通信の機会に送達し、その画面への利用者の分類データ入力を受領する。

【請求項4】 つぎの事項(21)～(28)により特定される発明。

(21) コンピュータを用いた情報処理システムであり、外部のコンピュータとネットワークを介して通信してWWWサーバーとして機能し、データベースに蓄積してある情報を適宜に提供する。

10 (22) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信して利用者IDに基づく認証を行う。

(23) 各利用者ごとのパーソナル記録簿を適宜な記憶資源に利用者IDに対応づけして用意する。

(24) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信し、検索条件の入力を受け付けるクエリー入力画面の画面構成データを送達することと、その画面で入力されたクエリーを受け取ることと、クエリーに回答してデータベースを検索することと、検索結果の情報を提示するレポート画面の画面構成データを送達することとを適宜に繰り返す。

20 (25) レポート画面構成データには、提示する検索結果情報についての記録をパーソナル記録簿に残すことを指示入力させるための記録指示欄を付帯させる。

(26) 利用者コンピュータにおいて前記記録指示欄に入力があつたことを認知したならば、指定された検索結果情報の情報識別子と、その検索結果情報の起源となつた検索条件とを対応づけしてパーソナル記録簿に記入する。

(27) 利用者コンピュータからパーソナル記録簿の記録内容の閲覧要求があつた場合、該当のパーソナル記録簿に記録されている各情報識別子に基づいて、それら情報識別子にリンクしているデータベース中の情報を適宜に取り出し、それら情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面の画面構成データを生成し、利用者コンピュータに送達する。

(28) 前記記録簿閲覧画面を構成するにあたり、各情報識別子と対応づけてパーソナル記録簿に記入されている前記検索条件に基づいて、どのような検索条件によりデータベースから引き出した情報がそれぞれ何件パーソナル記録簿に記録されているのかを適宜な表現で整理して提示する。

【請求項5】 請求項1の事項(8)または請求項4の事項(28)における「適宜な表現で整理して」とは図表形式の表現である。

【請求項6】 請求項1の事項(7)または請求項4の事項(27)における「情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面」とは、各分類ごと(または検索条件ごと)の情報件数に基づいて各情報概要を並べた表示順の画面である。

50 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】この発明は、WWWサーバーとデータベースを統合したコンピュータ情報処理システム（WWWデータベースシステム）に関し、とくに、アクセスしてくる利用者にそれぞれ専用のパーソナル記録簿を提供するシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】インターネットを活用したさまざまな情報提供サービスが一般社会に急速に浸透してきた。WWW（World Wide Web）と呼ばれている技術が開発されたことにより、インターネット上の情報検索が直感的でグラフィカルなユーザー・インタフェースで行えるようになり、インターネット環境が激変した。インターネット上にWWWの仕組みで情報を提供するコンピュータをWWWサーバーと呼び、WWWサーバーが提供する情報を検索閲覧するためにクライアント・コンピュータが備えるべきソフトウェアのことをWWWブラウザと呼んでいる。データベースにまつわる成熟した情報処理技術とインターネットWWWの仕組みが融合することで、社会的にきわめて意義深いさまざまな情報提供サービスが生みだされている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】インターネット上に開設された情報提供サービスシステムの1つの典型例として特許情報をサービスするWWWデータベースシステムを取り上げる。このシステムでは特許庁発行の公報がデータベースに蓄積されており、一般のパソコンからインターネットを通じてアクセスし、さまざまな検索条件を指定して該当する特許公報を選択的に引き出すことができる。

【0004】特許情報データベースを検索する人は当然ながらある目的をもっているわけで、その目的によって検索対象が異なる。ある目的にそってある検索条件を指定し、注目すべき何件かの特許公報に辿りついたとする。それら何件かの特許公報をたとえばPDF形式のデータとして自分のパソコンにダウンロードしたとする。ダウンロードした特許公報は紙に印刷してファイルしたり、あるいはパソコンのハードディスクにデジタルデータのままでファイルする。このように特許公報をファイルしたことで目的を完遂したことにはならないのが普通である。その特許公報の内容を吟味し、なんらかの検討対象と照し合せながら思考作業を継続的に行う。そのことこそが本来の目的である。

【0005】ある特許マンがデータベースを利用しながらさまざまな業務を行っている状況を想定しよう。ある目的で検索した特許公報をファイルし、また別の目的で検索した特許公報をファイルする。こうして、つぎつぎと特許公報が増えてくる。彼はこれらの特許公報を整理するためにいろいろと工夫するであろう。特許公報をデジタルデータのままファイルするかハードコピーをとる

かを問わず、なんらかの指標をつけて整理し、見やすく管理する必要性が生じる。

【0006】データベースから取得した多数の特許公報をとえば「国際特許分類」に従って分類整理することがある。また「特許出願人」や「発明者」によって分類整理したり、あるいはキーワードとなる「技術用語」を基準にして分類整理する。この分類作業は、多くの場合、これら公報を活用する特許マン自身が行っている。これは面倒なので、できれば省きたい作業である。

10 【0007】整理した特許公報ファイルが特許マン用のパソコンのハードディスクに格納されていたり、あるいはハードコピーされたファイルが特許マンのデスクサイドに置かれているとする。この特許マンが出張し、出先の打ち合せ中にある特許公報ファイルを見たいと思っても、出先のパソコンと会社の自分のパソコンとがネットワークでつながる環境になれば、あきらめるか他人の手を煩わせるかしかない。また、特許マンが自宅で仕事をしていたある特許公報ファイルを見たいと思った場合も同様である。

20 【0008】この発明は前記のような不便を解消しようとするものである。この発明に係るWWWデータベースシステムは、アクセスしてくる利用者にそれぞれ専用のパーソナル記録簿を提供し、その記録簿にデータベースの検索結果の記録を残しておく。また、利用者が自分のパーソナル記録簿の記録内容を閲覧するときに、そこに記録した情報を分類整理して見せる。このような便利な機能を実現することが本発明の目的である。

【0009】

【課題を解決するための手段】==請求項1の発明==

30

(1) コンピュータを用いた情報処理システムであり、外部のコンピュータとネットワークを介して通信してWWWサーバーとして機能し、データベースに蓄積してある情報を適宜に提供する。

(2) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信して利用者IDに基づく認証を行う。

(3) 各利用者ごとのパーソナル記録簿を適宜な記憶資源に利用者IDに対応づけして用意する。

40 (4) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信し、検索条件の入力を受け付けるクエリ入力画面の画面構成データを送達することと、その画面で入力されたクエリを受け取ることと、クエリに回答してデータベースを検索することと、検索結果の情報を提示するレポート画面の画面構成データを送達することとを適宜に繰り返す。

(5) レポート画面構成データには、提示する検索結果情報についての記録をパーソナル記録簿に残すことを指示入力させるための記録指示欄を付帯させる。(6) 利用者コンピュータにおいて前記記録指示欄に入力があつたことを認知したならば、指定された検索結果情報の情

50

報識別子を該当のパーソナル記録簿に記入する。

(7) 利用者コンピュータからパーソナル記録簿の記録内容の閲覧要求があった場合、該当のパーソナル記録簿に記録されている各情報識別子に基づいて、それら情報識別子にリンクしているデータベース中の情報を適宜に取り出し、それら情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面の画面構成データを生成し、利用者コンピュータに送達する。

(8) 前記記録簿閲覧画面を構成するにあたり、各情報識別子にリンクしている各情報の分類データをデータベースから取り出し、それら分類データに基づいてパーソナル記録簿に何という分類に属する情報が何件記録されているのかを適宜な表現で整理して提示する。

【0010】====請求項2の発明====

請求項1に記載のWWWデータベースシステムであって、事項(8)での情報分類処理に関し、各情報のどの属性項目を前記分類データとするのかを利用者が選択可能であり、利用者がこの選択をするための入力画面の構成データを利用者コンピュータとの適宜な通信の機会に送達し、その画面への利用者の選択入力を受領する。

【0011】====請求項3の発明====

請求項1に記載のWWWデータベースシステムであって、前記パーソナル記録簿には情報識別子と事項(8)での情報分類処理に関わる分類データとを対応づけて記録することとし、その分類データは利用者が任意に入力した分類データに対応したものであり、利用者がこの分類データ入力を行うための入力画面の構成データを利用者コンピュータとの適宜な通信の機会に送達し、その画面への利用者の分類データ入力を受領する。

【0012】====請求項4の発明====

(21) コンピュータを用いた情報処理システムであり、外部のコンピュータとネットワークを介して通信してWWWサーバーとして機能し、データベースに蓄積してある情報を適宜に提供する。

(22) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信して利用者IDに基づく認証を行う。

(23) 各利用者ごとのパーソナル記録簿を適宜な記憶資源に利用者IDに対応づけて用意する。

(24) アクセスしてきた利用者コンピュータと通信し、検索条件の入力を受け付けるクエリ入力画面の画面構成データを送達することと、その画面で入力されたクエリを受け取ることと、クエリに回答してデータベースを検索することと、検索結果の情報を提示するレポート画面の画面構成データを送達することとを適宜に繰り返す。

(25) レポート画面構成データには、提示する検索結果情報についての記録をパーソナル記録簿に残すことを指示入力させるための記録指示欄を付帯させる。

(26) 利用者コンピュータにおいて前記記録指示欄に入力があったことを認知したならば、指定された検索結果

情報の情報識別子と、その検索結果情報の起源となった検索条件とを対応づけてパーソナル記録簿に記入する。

(27) 利用者コンピュータからパーソナル記録簿の記録内容の閲覧要求があった場合、該当のパーソナル記録簿に記録されている各情報識別子に基づいて、それら情報識別子にリンクしているデータベース中の情報を適宜に取り出し、それら情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面の画面構成データを生成し、利用者コンピュータに送達する。

(28) 前記記録簿閲覧画面を構成するにあたり、各情報識別子と対応づけてパーソナル記録簿に記入されている前記検索条件に基づいて、どのような検索条件によりデータベースから引き出した情報がそれぞれ何件パーソナル記録簿に記録されているのかを適宜な表現で整理して提示する。

【0013】====請求項5の発明====

請求項1の事項(8)または請求項4の事項(28)における「適宜な表現で整理して」とは図表形式の表現である。

【0014】====請求項6の発明====

請求項1の事項(7)または請求項4の事項(27)における「情報の概要を一覧的に表現した記録簿閲覧画面」とは、各分類ごと(または検索条件ごと)の情報件数に基づいて各情報概要を並べた表示順の画面である。

【0015】

【発明の実施の形態】====システム構成の概要====
この発明のWWWデータベースシステムを中心としたネットワーク構成の概要を図1に示した。WWWサーバー1が本発明のシステムの中核をなすコンピュータであり、このWWWサーバー1と利用者が操作する外部のコンピュータ(パソコン)2とがインターネットを介して通信する。WWWサーバー1は以下のようなデータベース3と有機的に組み合わせるWWWデータベースシステムとして機能する。

【0016】====利用者とサーバー1のやり取り====

WWWサーバー1と利用者コンピュータ2とがインターネットを介して通信する仕組みは周知の既存技術に立脚している。WWWサーバー1は、アクセスしてきた利用者コンピュータ2と通信し、利用者の希望に応じて、検索条件の入力を促すクエリ入力画面の画面構成データを送達することと、その画面で入力されたクエリを受け取ることと、クエリに回答してデータベース3を検索することと、検索結果のレポート画面の画面構成データを送達することとを適宜に繰り返す。多くの場合、あるレポート画面がつぎの段階のクエリ入力画面でもある。このやり取りが本発明のWWWデータベースシステムとしての表面的な機能である。以下では、コンピュータ間の通信により実現しているごく一般的な事柄につい

て、ハードウェアやソフトウェアの構成や動作を逐一持ち出すことを避け、情報処理の論理ができるだけ容易に理解できるように、人間のコミュニケーションに似せた比喩的な説明も採り入れる。

【0017】====会員登録とパーソナル記録簿====
この発明のWWWサーバー1が提供するパーソナル記録簿のサービスを利用したいと思う人は会員登録をする必要がある。会員登録するには、利用者コンピュータ2を操作してWWWサーバー1にアクセスし、会員登録ページを取り寄せ、そのページ上で会員IDとパスワードとを入力してから「送信」ボタンをクリックする。これを受けてWWWサーバー1が利用者コンピュータ2で記入された会員IDとパスワードとを取得することになる。このあと両者間で確認の手続きを行い、最終的にWWWサーバー1の適宜な記憶資源に作成されている会員名簿に会員IDとパスワードとが対応づけて記入される。WWWサーバー1においては、登録された各会員が専用を使用するためのパーソナル記録簿を適宜な記憶資源に開設し、会員IDをキーとして該当のパーソナル記録簿にアクセスできるようにしている。なお、以下の説明では利用者がWWWサーバー1にアクセスしたときに、利用者IDとパスワードとによる個人認証プロセスを済ませているとする。

【0018】====特許情報データベース====
この発明の第1実施例として特許情報をサービスするWWWデータベースシステムを取り上げる。このデータベースには特許庁が発行する公開特許公報が1件単位で蓄積されている。各件の公報情報のデータ構造は、図2に示すように、出願番号・出願日・発明の名称・出願人・発明者・代理人・公開番号・公開日・国際特許分類を表記した索引部と、特許公開公報の全ページをPDF形式のデータで表現した公報本体部とからなる。この1件分の情報にはキーとしての情報IDが対応づけられている。

【0019】====クエリー入力画面とレポート画面の例====

アクセスしてきた利用者に提示するクエリー入力画面の一例を図3に示している。この図では利用者によって検索条件が既に記入されている。出願人の項目に「リクルート」と記入され、代理人の項目に「一色健輔」と記入されている。このクエリーが利用者コンピュータ2からWWWサーバー1に伝達されると、そのクエリーが検索エンジンに渡され、特許情報データベースの中から出願人がリクルートであり、かつ代理人が一色健輔である公開特許公報が検索される。

【0020】つぎにWWWサーバー1では、検索結果を利用者コンピュータ2に報告するレポート画面の構成データを生成する。そのレポート画面の一例を図4に示している。この例は図3のクエリーに対応したレポートであり、合計3件の公開特許が一覧表記されている。この

一覧表には公開特許番号・筆頭PC・発明の名称・出願人の各項目に加えて保存印欄がある。この保存印欄の存在が本発明の特徴を端的に表している（詳細は以下に順次説明する）。

【0021】利用者コンピュータ2において図4のレポート画面が表示されているとする。よく知られているように、このレポート画面中の公開特許番号をクリックすると、そのことがWWWサーバー1に伝達され、該当する公開特許公報のPDF形式の全文データがWWWサーバー1から利用者コンピュータ2に送達されて表示される。利用者はそれを画面で読んだり印刷できる。そして利用者は、検索により抽出されたいいくつかの公報の内容を順次検討し、その重要度や有用性を判断し、この公開特許公報は保存しておこうと決断する。

【0022】ある公開特許公報の全文を表示している状態において、その公報を保存しようと思った場合、その公報閲覧画面の所定位置に表示されている「保存」ボタンをクリックする。または図4のレポート画面の公開特許一覧表において、該当の公開特許の保存印欄をクリックする。このことが利用者コンピュータ2からWWWサーバー1に伝達され、「ある利用者がある公開特許の記録をパーソナル記録簿に残したいと意思表示した」という事象をサーバー1が認知する。

【0023】====パーソナル記録簿への記入====
WWWサーバー1が「ある利用者がある公開特許の記録をパーソナル記録簿に残したいと意思表示した」という事象を認知すると、その利用者IDに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、該当の公開特許のキーである情報IDと現在日付とを所定の書式に従って記入する。パーソナル記録簿の記録内容の概念を図5に示している。

【0024】====パーソナル記録簿の閲覧====
利用者がWWWサーバー1にアクセスしたときに利用者IDとパスワードによる個人認証プロセスを済ませているれば、特許情報データベースへのアクセスプロセスで利用者が見ることになる画面の随所に「記録簿閲覧」ボタンが表示されている。利用者コンピュータにおいて「記録簿閲覧」ボタンをクリックすると、そのことがWWWサーバー1に伝達され、「ある利用者がパーソナル記録簿の内容を閲覧したいと意思表示した」という事象をサーバー1が認知する。

【0025】WWWサーバー1が「ある利用者がパーソナル記録簿の内容を閲覧したいと意思表示した」という事象を認知すると、その利用者IDに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、その記入内容を読み取る。前述したように、パーソナル記録簿には各公開特許のキーである情報IDと保存日付のセットが利用者が保存操作した個数だけ記入されている（もちろん消去もできる）。WWWサーバー1は、これらの記入内容に基づいて図6に例示するような記録簿閲覧画面の構成デー

タを作成して利用者コンピュータ2に送達する。

【0026】図6の記録簿閲覧画面の例では、左半分が保存された公開特許一覧表であり、右半分がそれら公開特許の分類図表である。左側の公開特許一覧表は各件の公開特許番号・筆頭IPC・発明の名称・出願人・保存日の一覧表である。この表を作成するにあたっては、パーソナル記録簿に記入されている情報IDに基づいて特許情報データベースにアクセスし、必要な情報を取り出してきて、閲覧画面テンプレートにはめ込む（各特許の表中の順番は後述）。利用者コンピュータ2における公開特許一覧表の画面において、各件の公開特許番号をクリックすることで、該当の公報全文をデータベースから利用者コンピュータに取り寄せて見ることができる。

【0027】右側の分類図表は、パーソナル記録簿に何という国際特許分類（筆頭IPC）に属する公開特許が何件記録されているのかをヒストグラムで表現したものである。この分類図表を作成するには、各公開特許の国際分類を知る必要があるが、それは特許情報データベースから取得する。各特許を国際特許分類ごとに整理して各サブクラス毎の特許件数をカウントし、それを適当なデザインのヒストグラムで表現し、そのような画面構成データを作成する。

【0028】左側の一覧表における各特許の順番は、右側のヒストグラムにおける件数の多い国際特許分類（IPC）の順番にする。同じIPCに属する複数の特許はパーソナル記録簿への保存日付の順に並べる。一覧表における各特許の並べ方として、前記の分類順だけでなく、保存日付の順、公開特許番号順、出願人別の順など、いろいろな観点でソートできる機能を利用者に提供する。

【0029】===記録の残し方および閲覧させ方の他の例===

WWWサーバー1が「ある利用者がある公開特許の記録をパーソナル記録簿に残したいと意思表示した」という事象を認知すると、その利用者IDに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、該当の公開特許のキーである情報IDと現在日付に加えて、図7に示すように、その公開特許を検索したときの検索条件をセットにして記入する。これを実現するには、図4のレポート画面を構成する際に、各公開特許に検索条件を対応づけして記入しておく。

【0030】そして、WWWサーバー1が「ある利用者がパーソナル記録簿の内容を閲覧したいと意思表示した」という事象を認知すると、その利用者IDに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、その記入内容（情報ID・検索条件・保存日付）を読み取り、利用者コンピュータ2に送る図8のような記録簿閲覧画面の構成データを作成する。

【0031】図8の記録簿閲覧画面の例では、左半分が保存された公開特許一覧表であり、右半分がそれら公開

特許の検索条件分類図表である。左側の公開特許一覧表は各件の公開特許番号・検索条件・発明の名称・出願人・保存日の一覧表である。この表を作成するにあたっては、パーソナル記録簿に記入されている情報IDに基づいて特許情報データベースにアクセスし、必要な情報を取り出してきて、閲覧画面テンプレートにはめ込む（各特許の表中の順番は後述）。利用者コンピュータ2における公開特許一覧表の画面において、各件の公開特許番号をクリックすることで、該当の公報全文をデータベースから利用者コンピュータに取り寄せて見ることができる。

【0032】右側の検索条件分類図表は、どのような検索条件によりデータベースから引き出した公開特許がそれぞれ何件パーソナル記録簿に記録されていたのかをヒストグラムで表現したものである。この検索条件分類図表を作成するには、各公開特許をデータベースから引き出したときの検索条件毎に件数をカウントし、それを適当なデザインのヒストグラムで表現し、そのような画面構成データを作成する。

【0033】左側の一覧表における各特許の順番は、右側のヒストグラムにおける件数の多い検索条件の順番にする。同じ検索条件に属する複数の特許はパーソナル記録簿への保存日付の順に並べる。

【0034】===分類の仕方の選択===

図6に示した記録簿閲覧画面の実施例では、パーソナル記録簿に何という国際特許分類に属する公開特許が何件記録されているのかをヒストグラムで表現した分類図表を添付している。この実施例のように分類の仕方を国際特許分類だけに限定するのではなく、たとえば出願人別に分類したり、発明者別に分類したり、代理人別に分類するなど、複数の分類メニューを用意しておき、その中のどの分類の仕方を採用するのかを利用者が任意に選択できるようにする。この方式を実現するために、WWWサーバー1は、利用者コンピュータ2との適宜な通信の機会に、前記の分類メニューを利用者に提示してどれかを選択してもらうための入力画面の構成データを送達する。そして、利用者コンピュータ2における分類メニュー選択画面の表示上で選択された項目を認知し、それに従って記録簿閲覧時の公報分類処理を実行する。この方式を採用することで、より幅広く利用者の希望にあった分類サービスを提供できる。

【0035】===分類データを利用者が記入する===

ここまでの実施例の説明では、パーソナル記録簿の閲覧時に公報を自動分類する場合の分類データは国際特許分類・出願人・発明者・代理人などのシステム既定の属性項目であった。これに代えて、パーソナル記録簿の記録する各公開特許に対応づけして利用者が任意に設定した分類データを記録しておき、記録簿閲覧時にその分類データに従って各公開特許を分類するシステム構成も有用

である。この方式を実現するには、利用者コンピュータ2において特定の公開特許に対応づけて任意の分類データ（たとえば「ソフトウェア関連」とか「データベース応用」あるいは「ブラウザー技術」などの内容を端的に分類するキーワード）を記入できるようにする。たとえば、パーソナル記録簿の閲覧画面において、一覧表中の各公開特許に分類データ記入欄を設けておき、その欄に利用者が任意の分類データ（キーワード）を記入できるようにする。その記入内容をWWWサーバー1が認知し、各公開特許と分類データとを対応づけてパーソナル記録簿に記録しておく。あるいは、検索レポート画面において表示された任意の公開特許を利用者が選んでパーソナル記録簿に保存したい旨の入力をしたのを受けて、その公開特許に付ける分類データ（キーワード）を問い合せて記入させるウインドウを開き、そのウインドウに利用者が記入した分類データをWWWサーバー1が取得し、パーソナル記録簿に該当の公開特許とリンクさせて記録する。この方式によれば、分類の仕方をシステム既定のお仕着せに合せるのではなく、利用者自身が自由に分類の仕方を規定でき、より広範囲の利用者ニーズに適合するサービスを提供できる。

【0036】===データベースのコンテンツの他の例===

この発明の技術は、特許情報とは異なる他のコンテンツを取り扱っているデータベースにも効果的に応用できることは言うまでもない。他の例として、高校生が進路を考えるのに役立つ情報をデータベース化した進路選択支援システムについて、その概要を説明する。この例のデータベースは、情報の種類により職業データベース3aと学校学科データベース3bと学問データベース3cとに論理的に分けてデータベース3を構築している。

【0037】===職業データベース3a===
一般社会に見られるさまざまな職業に関する説明情報を「職種」をキーとして整理集約したデータベースであり、その論理構造の一例を図9に示している。職業データベース3aにおける1つの「職種」のレコードには、基本情報・オプション情報・目指せる資格・仕事の場所・仕事のテーマ・仕事のスタイル・仕事の対象・必要学問・関連職種などの項目が含まれる。仕事の内容や必要な資格および収入などの説明は基本情報の中に含まれる。たとえば「職種」の1つとして「看護婦／看護師」というレコードがあり、このレコードにはつぎのような各項目の情報が含まれている。

- 目指せる資格…正看護婦
- 仕事の対象…健康・栄養・薬
- 仕事の場所…病院・保健所・学校・保育園
- 仕事のスタイル…一生の仕事にできる
- 適性…人の世話をする
- 関連職種…介護士
- 必要学問…看護学

【0038】===学校学科データベース3b===

高校卒業生を対象に入学を受け付けている各種の学校や高等教育機関についての説明情報を整理集約したデータベースであり、学校学科の情報を区分けしてある。その論理構造の一例を図10に示している。学校学科データベース3bにおける1つの「学校学科」のレコードには、学校名・学部学科コード・学部学科名称・適合職種・対象学問・教育内容・基本情報・オプション情報などの項目が含まれている。基本情報の中に募集要項などが含まれる。たとえば「学校学科」の1つとして「かもめ専門学校／放射線技師養成科」というレコードがあり、このレコードにはつぎのような各項目の情報が含まれている。

- 適合職種…放射線技師
- 対象学問…医学
- 教育内容…医の倫理・生命の倫理を理解し、ライフサイエンスの第一線で活躍できる技術者の育成
- オプション情報…放射線技師になった先輩の話

【0039】===学問データベース3c===

高校卒業生が進学して学ぶ対象としての各種の「学問」についての説明情報を各「学問」をキーとして整理集約したデータベースであり、その論理構造の一例を図11に示している。学問データベース3cにおける1つの「学問」のレコードには、基本情報（学びの内容など）・オプション情報・必要な力・学び方・将来の活躍分野（適合職種）・学びの対象・学びのキーワード・関連学問などの項目が含まれる。たとえば「学問」1つとして「法学」というレコードがあり、このレコードにはつぎのような各項目の情報が含まれている。

- 必要な力…国語の理解力
- 学び方…実習・調査
- 将来の活躍分野（適合職種）…弁護士・裁判官
- 学びの対象…人間の社会・人間の心
- 学びのキーワード…少年犯罪
- 関連学問…哲学・政治学

【0040】===3種のデータベースの関連付け===

職業データベース3aにおけるメインキー「職種」と、学校学科データベース3bにおける「適合職種」の項目と、学問データベース3cにおける「適合職種」の項目は、同一の職種分類体系の同一の識別子を用いて記述しており、これら3種のデータベースにおける各レコードが「職種」をキーとして関連付けされている。学問データベース3cにおけるメインキー「学問」と、職業データベース3aにおける「必要学問」の項目と、学校学科データベース3bにおける「対象学問」の項目は、同一の学問分類体系の同一の識別子を用いて記述しており、これら3種のデータベースにおける各レコードが「学問」をキーとして関連付けされている。

【0041】===クエリ入力画面「仕事ナビ」===

=

アクセスしてきた利用者に最初に提示するクエリー入力画面の一例を図12に示している。これは職業データベース3aを検索閲覧するための「仕事ナビ」と名付けた画面であり、職業データベース3aの蓄積情報をどのような属性に従って検索するのかを指定するつぎのような検索メニューがある。

■ どんな場所で働きたい…職業データベース3aの「仕事の場所」の項目から適当な「職種」を検索する。

■ どのようなモノに関わりたい…職業データベース3aの「仕事の対象」の項目から適当な「職種」を検索する。

■ 働くならこれを大事にしたい…職業データベース3aの「仕事のテーマ」の項目から適当な「職種」を検索する。

■ 仕事はこんなふうになしたい…職業データベース3aの「仕事のスタイル」の項目から適当な「職種」を検索する。

■ 自分に合った仕事ってなんだろう…別途に提供される適職診断システムを経由して「職種」を検索する。

【0042】===クエリー入力画面「学問ナビ」===

「仕事ナビ」の画面から図13に例示する「学問ナビ」の画面に随時に移行できる。「学問ナビ」と名付けたクエリー入力画面は、学問データベース3cを検索閲覧するための画面であり、学問データベース3cの蓄積情報をどのような属性に従って検索するのかを指定するつぎのような検索メニューがある。

■ キーワードから学問を知る…学問データベース3cの「学びのキーワード」の項目から適当な「学問」を検索する。

■ どんなテーマの研究があるのだろうか…学問データベース3cの「学びの内容」の項目から適当な「学問」を検索する。

■ こんなコト・モノを対象にした研究がしたい…学問データベース3cの「学びの対象」の項目から適当な「学問」を検索する。

■ 好きな教科を活かしたい…学問データベース3cの「必要な力」の項目から適当な「学問」を検索する。

■ 自分に合った学問ってなんだろう…別途に提供される適性診断システムを経由して「学問」を検索する。

【0043】===「職業」のレポート画面===

「仕事ナビ」のクエリー入力画面を入口としてクエリー入力/検索結果レポートを適当に繰り返し、検索結果としてある1つの「職種」に関する情報に到達する。その検索結果のレポート画面の一例を図14に示している。この例では「職種」である「看護婦/看護師」に関してのさまざまな情報が編集されている。このレポート画面から「看護婦/看護師」に関連付けされている他の情報を引き出すことができる。

【0044】その1つに「この仕事につくための専門学校は？」と付記された「学校ナビ」のアイコンがある。このアイコンをクリックすると、学校学科データベース3bにおいて「適合職種」の項目に「看護婦/看護師」と記入されている学校学科を検索し、それら学校学科の説明情報をデータベース3bから取り出して、それら情報を見やすく一覧形式に編集したレポート画面を利用者に提示する。これにより「看護婦/看護師になるにはつぎのような学校学科で勉強する道があります」といった説明とともに該当の学校学科の情報が利用者に提示される。利用者は、この学校学科の一覧画面からひとつひとつの学校学科を指定することで、学校学科データベース3bから該当の詳細情報を取り出して閲覧することができる。

【0045】図14のレポート画面には「関連する大学の学問は？」と付記された「学問ナビ」のアイコンもある。このアイコンをクリックすると、学問データベース3cにおいて「将来の活躍分野(適合職種)」の項目に「看護婦/看護師」と記入されている学問を検索し、それら学問の説明情報をデータベース3cから取り出して、それら情報を見やすく一覧形式に編集したレポート画面を利用者に提示する。これにより「看護婦/看護師になるにはつぎのような学問を勉強すること道があります」といった説明とともに該当の学問の説明が利用者に提示される。利用者は、この学問の説明画面から学問データベース3cのさまざまな情報を取り出すことができる。

【0046】===「学問」のレポート画面===
「学問ナビ」のクエリー入力画面を入口としてクエリー入力/検索結果レポートを適当に繰り返し、検索結果としてある1つの「学問」に関する情報に到達する。その検索結果のレポート画面の一例を図15に示している。この例では「学問」である「法学」に関してのさまざまな情報が編集されている。このレポート画面の右側には「学問」としての「法学」に関連付けされている他の情報を引き出すことができる。

【0047】その1つに「将来の活躍分野は？」と付記された「仕事ナビ」のアイコンがある。このアイコンをクリックすると、職業データベース3aにおいて「必要学問」の項目に「法学」と記入されている「職種」を検索し、それら職種の説明情報をデータベース3bから取り出して、それら情報を見やすく一覧形式に編集したレポート画面を利用者に提示する。これにより「法学」を学ぶと将来どのような職業で活躍できるのかが理解しやすく利用者に提示される。利用者は、この職種紹介の一覧画面からひとつひとつの職種を指定することで、職業データベース3aから該当の詳細情報を取り出して閲覧することができる。

【0048】図15のレポート画面には「この学問を学べる学科は？」と付記された「学校ナビ」のアイコンも

ある。このアイコンをクリックすると、学校学科データベース3bにおいて「対象学問」の項目に「法学」と記入されている学校学科を検索し、それら学校学科の説明情報をデータベース3bから取り出して、それら情報を見やすく一覧形式に編集したレポート画面を利用者に提示する。これにより「つぎのような学校学科で法学が学べます」といった説明とともに該当の学校学科の説明が利用者に提示される。利用者は、この学校学科の説明画面から学校学科データベース3bのさまざまな情報を取り出すことができる。

【0049】===学問データベース3cの特殊検索===

利用者が自分に合った「学問」を探し出すことを支援するために、つぎのような機能を設けている。これは、図13に例示したクエリ入力画面「学問ナビ」のメニューの中の「■自分に合った仕事ってなんだろう」を利用者が選択すると実行される。まず利用者に対して設問画面を提示し、利用者の学力到達度もしくは教科ごとの好きなことを問合わせる。この設問項目は文部省の学習指導要領に基づいて作成したもので、多数の項目に分類された学習要項ごとの学力到達度を問合わせる。ただし、同一の情報収集のための設問であっても、問い合せの表現によっては、学力到達度を問うというよりは、教科ごとの好きなことを問うということになる。

【0050】前記の設問画面に利用者が回答を入力する。サーバーがその回答情報を取得し、所定のアルゴリズムに従って演算処理し、演算結果としてその利用者に合った特定の「学問」を選出する。そして、その「学問」についての説明情報を学問データベース3cから取り出し、見やすく編集したレポート画面を利用者に提示する。

【0051】===パーソナル記録簿の活用===

以上概説した進路選択支援システムにおいて、本発明を適用することで、「仕事ナビ」のレポート画面(図14)で提示された職種情報の記録をパーソナル記録簿に残したり、「学問ナビ」のレポート画面(図15)で提示された学問情報の記録をパーソナル記録簿に残しておくことができる。つまり、各レポート画面には指定された職種情報や学問情報についての記録をパーソナル記録簿に残すことを指示入力させるための「保存」ボタンを付帯させており、利用者コンピュータ2において「保存」ボタンをクリックされると、そのことがWWWサーバー1に伝達される。これで「ある利用者がある職種情報(学問情報)の記録を残したいと意思表示した」という事象をWWWサーバー1が認知し、その利用者1Dに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、指定された職種情報(学問情報)のキーである職種1D(学問1D)と現在日付のセットを記入する。

【0052】さて本実施例においては、さまざまな職業を70種類の職種に細分類してそれぞれに固有の職種1

Dを付けている。この70種類の職種は「語学を活かせる仕事」「ファッションに関する仕事」「医療に関わる仕事」「福祉に関わる仕事」「マスコミ・音楽に関わる仕事」などというように、その傾向によって20種類に大分類されている。そして70種類の各職種が20種類の大分類のどれに属するのかを示す大分類コードが職種1D自身に含まれている。なお、学問の分類にも同様な概念の大分類があり、各学問がどの大分類に属するのかを示す大分類コードが各学問1D自身に含まれている。

10 【0053】WWWサーバー1が利用者コンピュータ2と通信して「ある利用者がパーソナル記録簿の内容を閲覧したいと意思表示した」という事象を認知すると、その利用者1Dに対応づけられているパーソナル記録簿にアクセスし、その記入内容(職種1Dと日付の多数のセット)を読み取る。WWWサーバー1は、これらの記入内容に基づいてデータベース3に適宜にアクセスして必要な情報を取り出し、図16に例示するような記録簿閲覧画面の構成データを作成して利用者コンピュータ2に送達する。

20 【0054】図16の記録簿閲覧画面では、左半分が保存された職種一覧表であり、右半分がそれら職種の大分類図表である。左側の職種一覧表は各職種の名称と関心度記入欄とからなる。右側の大分類図表は、パーソナル記録簿に何という大分類に属する職種が何件記録されているのかを図表形式で示したものである。図中の●印で表現した「チェック状況」のグラフがその大分類図表の要部である。

【0055】なお、左側の職種一覧表における関心度記入欄には、利用者コンピュータ2にて大・中・小など、各職種情報に対する利用者自身の関心度を記入できるようになっている。この関心度の大きい順に各職種名称を並べた閲覧画面を構成する機能を利用者に提供している。

【0056】

【発明の効果】(a)データベースの利用者が検索結果の記録を任意にパーソナル記録簿に残すことができ、その記録内容を利用者が適時に見ることができる。このパーソナル記録簿はWWWデータベースシステムにおけるサーバーの記憶資源に設定され、サーバーが管理している。そのため、利用者がサーバーに会社のパソコンからアクセスするのか、自宅のパソコンからアクセスするのか、または外出先で借用したパソコンからアクセスするのかを問わず、自分のパーソナル記録簿を取り扱うことができる。つまり、自分のパーソナル記録簿に過去に記録してあるデータベース検索結果情報を何処からでも何時でも見ることができし、また新たな検索を行って新たな情報をパーソナル記録簿に記録することができる。

【0057】(b)パーソナル記録簿の内容を閲覧する際に、保存を希望した情報の概要が一覧的に表現された画面に加えて、何という分類に属する情報が何件記録さ

れているのが適宜な表現で整理して提示される。そのため、利用者自身が検索結果の情報を逐一分類整理しなくても、自分自身の過去の行為（データベースを検索して適当な情報を保存するという行為）によって蓄積された情報の分類傾向が一目瞭然に分かり、これがなんらかの付加価値を生み出すことになる。

【0058】(c) 同様に、どのような検索条件によりデータベースから引き出した情報がそれぞれ何件パーソナル記録簿に記録されているのが適宜な表現で整理して閲覧画面に提示されるので、利用者自身のデータベース検索行為とその結果得た情報との関係を一目瞭然に把握することができ、情報の付加価値が高まる。

【0059】(d) パーソナル記録簿の閲覧画面では、各分類ごと（または検索条件ごと）の情報件数に基づいて各情報概要を並べた表示順とするので、まったく利用者の手数をかけずに整然と整理分類された情報を見ることができ、きわめて実用的な価値が高い。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のWWWデータベースシステムを含むネットワークの概念図である。

【図2】特許情報データベースの論理構造例を示す概念図である。

【図3】特許情報検索のクエリー入力画面例の概略図である。

【図4】特許情報検索のレポート画面例の概念図であ

る。

【図5】パーソナル記録簿の記録内容の概念図である。

【図6】パーソナル記録簿の閲覧画面例の概念図である。

【図7】他の実施例におけるパーソナル記録簿の記録内容の概念図である。

【図8】他の実施例におけるパーソナル記録簿の閲覧画面例の概念図である。

【図9】職業データベースの論理構造例の概念図である。

【図10】学校学科データベースの論理構造例の概念図である。

【図11】学問データベースの論理構造例の概念図である。

【図12】クエリー入力画面「職業ナビ」の概念図である。

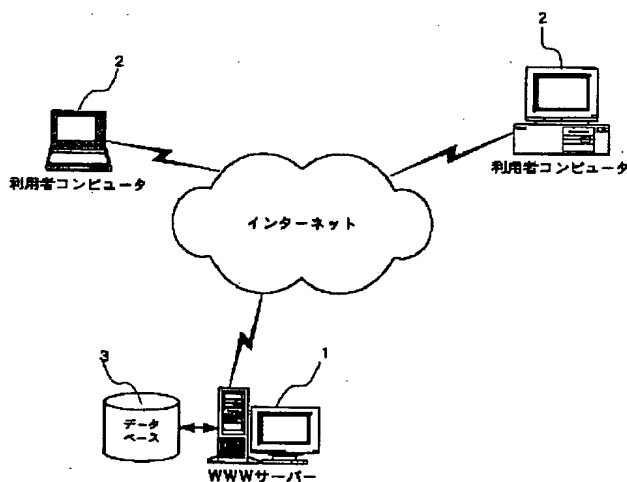
【図13】クエリー入力画面「学問ナビ」の概念図である。

【図14】「職業ナビ」におけるレポート画面例の概念図である。

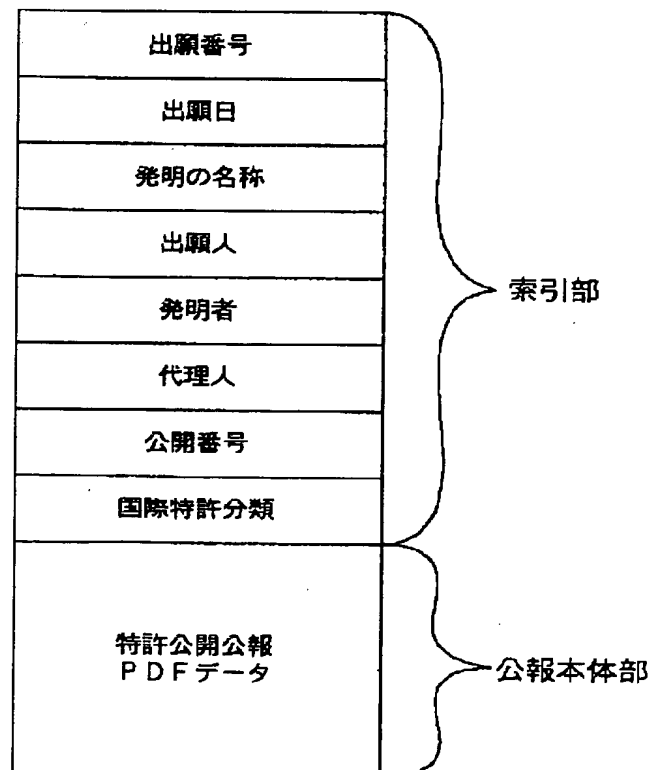
【図15】「学問ナビ」におけるレポート画面例の概念図である。

【図16】進路選択支援システムにおけるパーソナル記録簿の閲覧画面例の概念図である。

【図1】



【図2】



【図3】

検索文献対象

特許公報

検索項目

出願人 リクルート

代理人 一色健輔

検索開始

【図5】




利用者ID: HI2R4OKI

情報ID	保存日付
H10232893	1998. 9. 24
H10171687	1998. 9. 24
H10247195	1998. 9. 28

【図4】

検索レポート

キーワードは、出願人"リクルート"、代理人"一色健輔" です。
表示件数は3件です

保存印	文献番号	筆頭IPC	名称	出願人
	特開平10-232893	G06F 17/60	インターネット上にてWWWサーバーとして機能する情報交換仲介装置	株式会社リクルート
	特開平10-171687	G06F 12/00	電子出版のために情報をデータベース化して記録し再生する方法	株式会社リクルート
	特開平10-247195	G06F 17/30	ユーザ支援機能を備えたインターネット上のデータベース検索システム	株式会社リクルート

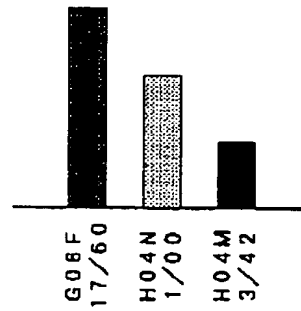
【図7】

利用者ID: HI2R4OKI

情報ID	保存日付	検索条件
H10232893	1998. 9. 24	出願人: 株式会社リクルート 代理人: 一色健輔
H10171687	1998. 9. 24	出願人: 株式会社リクルート 代理人: 一色健輔
H10247195	1998. 9. 28	出願人: 株式会社リクルート 代理人: 一色健輔

【図6】

IPC分類別ヒストグラム

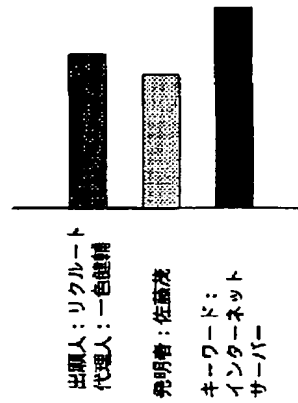


あなたが保存印を付けた公開特許一覧

文献番号	筆頭IPC	名称	出願人	保存日
特開平10- 232893	G06F 17/60	インターネット上にてWWWサーバ として機能する情報交換仲介装置	株式会社リクルート	1998.8.21
特開平10- 247195	G06F 17/30	ユーザ支援機能を備えたインターネッ ト上のデータベース検索システム	株式会社リクルート	1998.9.5
特開平10- 171687	G06F 12/00	電子出版のために情報をデータベース 化して記録し再生する方法	株式会社リクルート	1998.9.5
特開平10- 107943	H04N 1/00	インターネットFAXサービス方式	株式会社リクルート	1998.7.15
特開平9- 83694	H04N 1/00	画像データ送受信方法、及び画像デー タ送受信装置	株式会社リクルート	1998.8.2
特開平6- 37896	H04M 3/42	音声メール着信処理方式	株式会社リクルート	1998.8.2

【図8】

検索条件別件数



あなたが保存印を付けた公開特許一覧

文献番号	第1IPC	名称	出願人	保存日
特開平10-232893	G06F 17/60	インターネット上でWWWサーバとして機能する情報交換仲介装置	株式会社リクルート	1998.8.21
特開平10-247195	G06F 17/30	ユーザ支援機能を備えたインターネット上のデータベース検索システム	株式会社リクルート	1998.9.5
特開平10-171587	G06F 12/00	電子出版のために情報をデータベース化して記録し再生する方法	株式会社リクルート	1998.9.5
特開平10-107943	H04N 1/00	インターネットFAXサービス方式	株式会社リクルート	1998.7.15
特開平9-83694	H04N 1/00	画像データ送受信方法、及び画像データ送受信装置	株式会社リクルート	1998.8.2
特開平8-37896	H04M 3/42	音声メール着信処理方式	株式会社リクルート	1998.8.2

【図9】

職業データベース3aのレコード構成例

職種ID
職種名称
基本情報 (仕事の内容など)
オプション情報
目指せる資格
仕事の場所
仕事のテーマ
仕事のスタイル
仕事の対象
必要学問
関連職種

【図10】

学校学科データベース3bのレコード構成例

学校ID
学校名称
学部学科ID
学部学科名称
適合職種
対象学問
教育内容
基本情報 (募集要項)
オプション情報

【図11】

学問データベース3cのレコード構成例

学問ID
学問名称
基本情報 (学びの内容など)
オプション情報
必要な力
学び方
将来の活躍分野 (適合職種)
学びの対象
学びのキーワード
関連学問

【図12】

リクルート進学ネット		仕事ナビ	学問ナビ	学校ナビ	進学??
仕事ナビ	仕事ナビでは 以下のようなテーマで仕事について研究できます。				
	●どんな場所で働きたい? (仕事の環境)				
	●どんなモノに関わりたい? (仕事の対象)				
	●動くなればこれを大事にしたい! (仕事のテーマ)				
	●仕事はこんなふうになりたい! (ワークスタイル)				
	●自分に合った仕事って何だろう? (適職診断の結果から)				
	▲興味のあるテーマをクリックして下さい。				

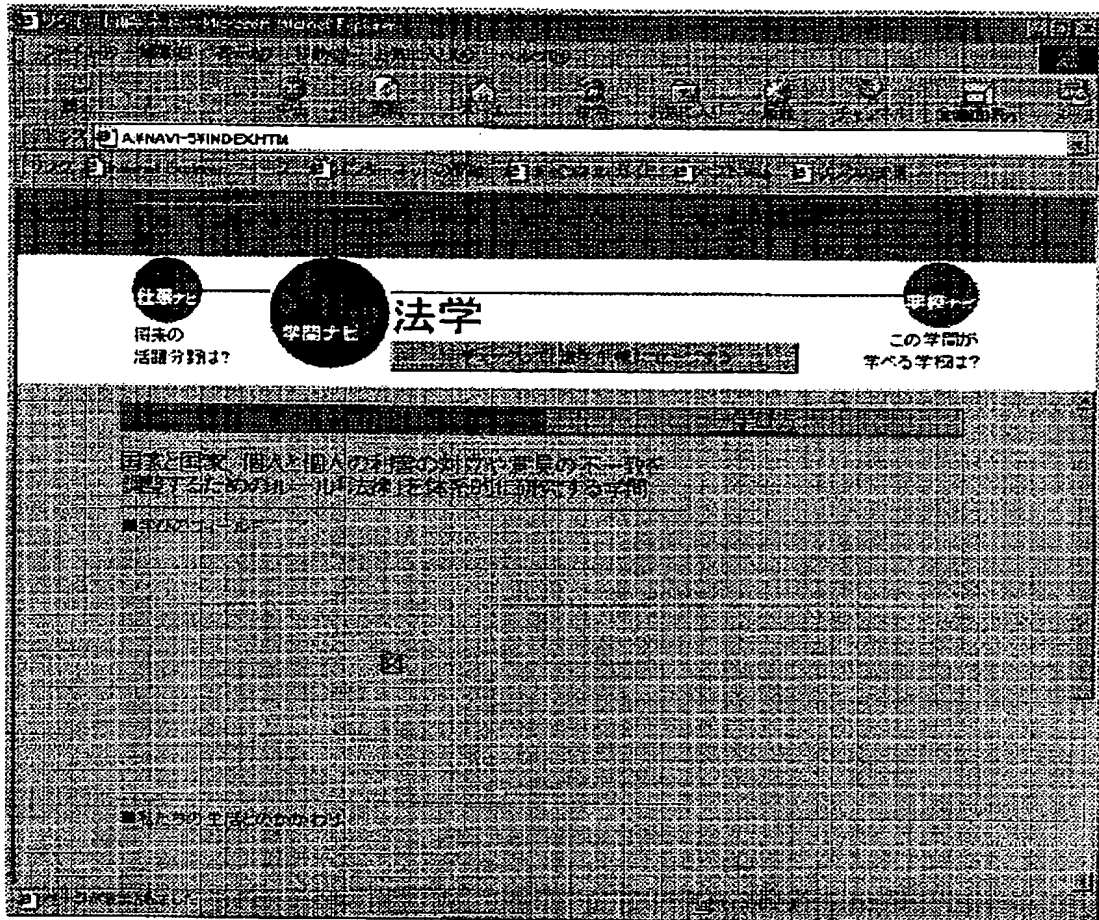
【図13】

リクルート進学ネット		仕事ナビ	学問ナビ	学校ナビ	進学??
学問ナビ	[学問ナビ] では 以下のようなテーマで 学問について研究できます。				
	●キーワードから学問を知る				
	●どんなテーマの研究があるの？				
	●こんなコト・モノを対象にした研究がしたい				
	●好きな教材を活かしたい				
	●自分に合った学問って何だろう？ (適性診断)				

【図14】



【図15】



【図16】

あなたが選んだ職種一覧		現在のあなたと仕事 適職診断結果とチェック状況	
職種名 (仕事の領域)	興味の度合い	▼あなたの仕事に対する志向	
看護婦・看護士 (教育・福祉・医療系)	やりたい仕事no.1	経営に関する仕事	
編集者 (デザイン・マスコミ・芸術系)	やりたい仕事no.2	語学力を活かせる仕事	
アナウンサー (デザイン・マスコミ・芸術系)	一応チェック	モノを作る仕事	
ツアーコンダクター (サービス系)	この表から削除	多くの人に会える仕事	
イラストレーター (デザイン・マスコミ・芸術系)	やりたい仕事no.3	ファッションに関わる仕事	
弁護士 (心理学系)	▼設定してください	医療に関わる仕事	
		福祉に関わる仕事	

※「興味の度合い」を変更すると、
希望の強い順に並び替えることができます。

職種名をクリックすると、職種の詳細な情報を見れます。

フロントページの続き

(72)発明者 上市 由香

東京都中央区銀座8丁目4番17号 株式会
社リクルート内

Fターム(参考) 5B075 ND03 ND07 ND23 ND34 NK02
NK04 NK14 NK24 PP02 PP03
PQ14 PQ15 PQ46 QT06 UU40
5B089 GA11 GA21 HA10 JA21 JB22
KA01 KC44 KC46 KC58 LB03
LB15